

## 太宰治文学ウォーク

- J R船橋駅  
南口スタート
- 船橋第一歩をしるした駅。彼の友人、壇一雄が二度この駅で下車し九重橋を渡り居宅を訪問。 奉公人お慶の長男が勤務していた。
- 海老の湯跡
- 太宰治・小山初代が利用していた公衆浴場(平成17年3月31日閉店)「めくら草紙」に浴室での世間話が・・・
- 太宰治居宅跡
- 昭和10年7月頃、北芳四郎の世話で五日市本宿(宮本1丁目)の新築借家(三間)に転居。庭には彼が隣家吉岡宅から貰った夾竹桃、またその奥方の妹君子16歳との思い出の青桐もあった。
- 川奈部薬局
- 麻薬性鎮痛剤パビナールを付けて購入していた。芥川賞の賞金5百円を当てにしていた。店主川奈部真佐雄氏は太宰と同一年で、平成15年5月22日逝去す。
- 旧長医院
- 現川久保歯科医院。建物内部は当時のまま。長先生の診察を受けた。
- 船橋大神宮
- 境内で行われている地元の盆踊り(8月14~16日)のやぐら前で初代と記念撮影。
- 海老川橋たもと
- この橋の九日市(本町)側に船橋郵便局があった。朝の散歩の時に兄文治及び友人に借金懇願の葉書を投函。また川端康成氏への問題の泣訴状もここから(昭和11年6月29日付)
- 市民文化ホール前
- 記念碑。旧宅から移植された夾竹桃が繁茂している。青桐は吉岡家に譲られ、母屋新築まで繁茂していた。
- 玉川旅館
- 執筆活動のため約3週間滞在。「桔梗の間」に滞在したが、宿泊代未払いの為、退室させられた。「船橋のまちは、おもしろくない」「このごろよく泣く」(昭和10年8月31日付、今官一宛)  
太宰の手荷物は、昭和51年10月13日の旅館母屋出火の際、消失。  
創業大正十年。初代小川與市氏 昭和12年7月他界
- 旧警察署
- 現在は船橋商工会議所。旧警察署に金木町出身の巡査がいた。その巡査の奥方、お慶は津島家の女中をしていた。幼少の頃の太宰は、このお慶をいじめていた。お慶は夫と末娘を連れ、太宰宅を訪れている。
- 稲荷神社
- 「晩年」の口絵に使用した、石の狛犬の前の写真が撮影された場所

今回の文学ウォークは、太宰治文学の研究を目的としたものではありません。  
市内散策を楽しみながら、太宰治の足跡を感じて頂ければ幸いです。会長 海老原 義憲

★毎年6月19日前後の午後1時実施★ディスカバー船橋実行委員会 ☎ 425-4173

- 明治42年 6月19日 青森県北津軽郡金木村に生まれる(4男・父県会議員)  
大正12年 3月 貴族院議員の父(52歳)東京の病院で死去
- 昭和 2年 4月 官立弘前高校に入学  
4年 弘前の下宿で第1回自殺未遂  
5年 4月 東京帝大仏文科入学 井伏鱒二に師事  
10月 婚約者小山初代(19歳)と鎌倉小動崎で薬物心中を図る  
11月 24日 分家除籍を条件に初代との結婚が認められる  
11月 28日 田部シメ子(21歳)と初代(21歳)の結婚が認められる  
6年 2月 北芳四郎の親戚に滞在し、本格的創作を開始  
7年 2月 初めて「太幸治」の筆名で「列車」を東奥日報に発表  
8年 2月 19日
- 昭和10年 2月 「逆行」第1回芥川賞候補作に  
3月 都新聞社の入社試験に失敗  
3月 17日 鎌倉・祇園山付近で単身、自殺未遂(3回目)  
4月 4日 篠原病院(阿佐ヶ谷)に盲腸の手術の為、入院  
5月 その後、鎮痛剤パピナールが習慣化  
世田谷区経堂の内科の病棟へ転院(入院2か月)
- 7月 1日 北芳四郎(兄の知人、洋服屋)の世話で、船橋町五日市  
本宿の新築家屋に転居(26歳・町役場近くに仮住まい)  
約2か月間、週に1度、東京から医者が来た
- 8月 第1回芥川賞・次席  
玉川旅館で執筆活動(作:ダスゲマイネ、虚構の春)
- 9月 帝大授業料未納の為除籍される。檀一雄 初来船(初秋)
- 昭和11年 1月 『新潮』に「めくら草紙」を発表  
2月 25日 壇一雄 船橋訪問2度目。この時「晩年」出版の打ち合  
せを砂子屋書房浅見淵氏と。題字は初代の叔父吉沢祐五  
郎氏に、口絵は稲荷神社前の写真を採用することに決定  
6月 25日 「晩年」を砂子屋書房から刊行。  
6月 29日 川端康成に泣訴状を出す(第3回芥川賞に晩年を自薦)  
6月 死ぬる記念にと初代と千葉市内の活動写真館へ  
7月 11日 上野精養軒で「晩年」の出版記念会  
この日付けで兄文治に3百円の借金を願い出る  
8月 8月 14日頃 パピナール中毒と肺病治療の為、谷川温泉へ  
船橋大神宮境内の盆踊り櫓前で、初代と記念撮影  
10月 13日 井伏鱒二、北芳四郎らの説得でパピナール中毒根治の  
ため江古田の武蔵野病院へ(脳病院・担当医中野嘉一)  
11月 12日 退院 杉並区天沼のアパートでHUMAN LOSTを書き始める
- 昭和12年 3月 21日 水上温泉で初代とカルモチン心中を図るが未遂(4)  
4月 「HUMAN LOST」(新潮)を発表  
6月 初代と離別(7年後 青島で病死。初代 32歳)
- 昭和14年 1月 8日 井伏鱒二夫妻の媒酌で石原美知子と結婚(29歳)
- ☆ 23年 2月 船橋へ再来船、某女子大の講師宅泊。土産に干物購入  
6月 13日 山崎富栄と玉川上水に入水自殺、満38歳